

中河伸俊先生の定年ご退職にあたって

総合情報学部長 名取 良太

中河伸俊教授が定年を迎えられ、ご退職になられた、それにあたり、先生のご功績を紹介し、感謝の辞を述べさせていただきます。

中河先生は、1974年3月に同志社大学文学部社会学科を卒業されたのち、ルーズヴェルト大学大学院政策研究科修士課程に入学され、イリノイ大学シカゴ・サークル校大学院行動科学部社会学科修士課程に転学後、1977年8月に同課程を修了されました。そして、京都大学大学院文学研究科博士前期課程、同博士後期課程に進まれ、1983年4月から富山大学、2001年4月からは大阪府立大学で教鞭を取られたのち、2011年4月に関西大学総合情報学部に着任され、以来11年間にわたり、副学部長を務められるなど、本学部・研究科の運営に大変なご尽力をいただきました。

中河先生のご専門は社会学で、なかでも社会問題研究における社会構築主義アプローチについて、我が国の第一人者として議論をリードされてこられました。代表的な著作として『社会問題の社会学 構築主義アプローチの新展開』、『構築主義の社会学 論争と議論のエスノグラフィ』、『社会構築主義のスペクトラム パースペクティブの現在と可能性』、『方法としての構築主義』があり、2003年には「社会問題の構築主義的探求 理論と応用」で京都大学から博士（文学）の学位を授与されました。

中河先生とは専門分野に近いこともあり、学内業務だけでなく雑談も含めて、色々な場面でご一緒させていただきました。文学、古典芸能から現代の若者文化に至るまで実に幅広い知識をお持ちで、その語り口から教養の深さを感じさせられておりました。他方、周囲を観察する眼は常に鋭く、私自身、本質を見抜かれているように思っておりました。ユーモアを交えながらも、どこかシニカルな雰囲気の評される先生のお話は、額面通りには受け止められず、いつもその真意を考えさせられました。

そんな中河先生ですが、特に印象に残っているのは、学部運営のここぞという場面では、あえて直情的な発言をされていらっしたことです。普段の雰囲気とは異なる姿をお見せになることで、全員が事の重要性を再認識することができました。そうした緩急のつけ方も、勉強させていただけたと思っております。

中河先生が学部・研究科に残された有形無形の功績は、今後の運営と発展に、必ず結びつくものと確信しております。先生のこれまでのご貢献に深く感謝をするとともに、先生のますますのご健勝とご活躍を祈念いたします。

